



ユーザー様の声 学校法人 海城学園 様

電子黒板で、授業はもっとアクティブに、もっと自由になる。



海城中学高等学校 理科(化学) ICT教育部
平田 敬史 先生

DATA

設置時期: 2015年8月
導入製品: AOI-SPCM-UDS
ナノホワイトボード
黒板/ホワイトボード専用
ラインアレイスピーカー AKS-8ML
設置教室: 24教室

Q: 電子黒板導入のきっかけを教えてください。

A: これまでも、授業で数分でも映像を見せたい時には、毎回スクリーンとプロジェクターを教室に持って行っていました。ただ、2,3分のためには準備時間が勿体無い。それで諦めることもできましたが、逆に1時間ずっと使い続けてみようと思いました。そうしたら、映像以外にも、見せたいものやコンテンツはいくらでもあることがわかりました。また、大学入試改革を機に、学内で「改革特別委員会」が組織されました。大学入試がどのように変わっていくか、情報を集め考える中で、ICTは根幹になる部分だと思いました。授業で、ICTをどのように使っていくかを考えた時に、2020年には、1人1台タブレットを持つと言われてはいますが、いきなりはできません。そこで、まず教員が慣れ親しんで、授業をすることから始めようと決めたタイミングで、展示会で青井黒板を知り、電子黒板の導入に繋がりました。

Q: 導入後の先生方の反応はいかがですか？

A: 英語科の教員は、YouTubeで、大統領の演説の動画など、ネイティブの人の「生きている英語」をリアルタイムで伝えています。前のようなプロジェクターもネットワークもない授業は考えられない、すごく良いと言っています。

Q: 生徒さんの反応はいかがですか？

A: ビジュアルで見せられるので、食いつきが良いです。前を向く時間が圧倒的に増えました。化学は、変化を学ぶ学問なので、変化前後の写真を見るだけでなく、変化していく様子も見られるので、理解しやすくなったと言っていますね。でもそれも当たり前前の時代が来ますので、次の手を考えないといけないですね。

Q. 導入を検討されている学校様へのメッセージ

A. 電子黒板で何が出来るかを先に考えるよりも、何を実現したいかを先にイメージするのが大事です。実際に使ってみないとわからない部分もありますので、まずは使ってみて、その次にどうゆうことができそうか、いろいろな人とよく話して、アイデアを出し合うとおもしろいと思います。使える機器がないと、試行錯誤もできません。試行錯誤していく内に、アイデアが生まれます。授業はどのようにでも変わります。電子黒板は、授業準備の時間はかかりますが、見せられるものが増えるので、授業自体はスムーズに進み、そして今まで以上にアクティブになると思います！